

第2弾!

～富士宮市立中央図書館 特別ブックガイド～



# 図書館司書のおすすめ本

中央図書館の司書が、皆さんにとっておきの一冊をご紹介します！今回も、いろいろな本が集まりました。お気に入りの一冊と出会うヒントになれば嬉しいです。

※都合により、一部の図書については書影(表紙画像)を掲載していません。ご了承ください。

## 一般小説

『逢坂の六人』 周防柳／著 集英社



史上初のやまと歌の勅撰集はどのように成立したのか。いえ、難しいお話ではありません。これはやまと歌を愛する1人の男が、幼少期に出逢った個性的な5人との思い出を振り返るお話。アルバムをめくるような気持ちでお楽しみください。読了後は古今和歌集と伊勢物語が読みたくなるので一緒に借りていくことをおすすめします。(選んだ司書:よみ人しらず)

## 児童絵本

『みどりいろのつりがね』 オトフリート・プロイスラー／作 ヘルベルト・ホルツィング／絵  
武本佳奈絵／訳 好学社



この鐘の音を聞いた人は、誰もが新しく生まれ変わったような気持ちになるのでした…イワンの畑から出てきた鐘。村のみんなの宝物だった鐘。この鐘を、皇帝は自分の城に持って帰ろうとします。

「大どろぼうホッツェンプロッツ」のプロイスラーが「クラブアート」の画家と作った絵本。贈り物のような一冊です。(選んだ司書:ぼによ)

## 一般エッセイ

『神谷美恵子 -島の診療記録から-』 神谷美恵子／著 平凡社

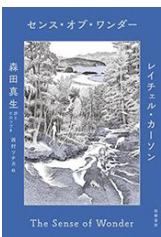


隔離された島で暮らすハンセン病と精神を病んだ人々との触れ合いの中で、患者から直接教えられたことをエッセイとして残した精神科医、神谷美恵子の作品。自然体で、おごりのない文章に思わず付箋をつけて読み返した。

そう言えば母がいつか神谷美恵子の本を読んでみて…と私に言っていたことを思い出した。本は時を越えて人と人をつなげてくれる。(選んだ司書:ひよろり)

## 一般教養

『センス・オブ・ワンダー』 レイチェル・カーソン／著 森田真生／訳とそのつづき  
西村ツチカ／絵 筑摩書房



この著者の本との出会いは、私の“数学”の概念を解き放った(『アリになった数学者』)。身の回りの自然と人、あらゆる事象が絡み合っていて関わり合っている世が成り立っているということを感じに訴えた。

その著者が、『センス・オブ・ワンダー』の世界を、彼の言葉で紡ぎだす。本書の後半は、わが子達と身の回りの世界との関わりを、父としての目線でみずみずしく魅せる。(選んだ司書:匿名希望)

## 児童教養



『アリになった数学者』 森田真生／文 脇阪克二／絵 福音館書店

## 一般教養



『「専門家」とは誰か』 村上陽一郎／編 藤垣裕子ほか／著 晶文社

2020年代前半。世界中がこれ程真摯に「専門家」の知見に耳を傾けたことは無かったのではないのでしょうか。そして「専門家」による見解の相違にこれ程戸惑ったことも…。万象入り組む緊急事態は特定分野の専門知識だけで対処可能とは限らず、直面して初めて判明する事実もある。それでも、先人から連なる地道な客観事実の積み重ねは人類の偉大な財産と信じたい。(選んだ司書:TKS)

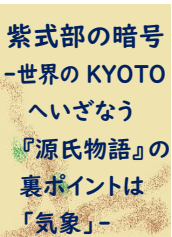
## 一般小説



『盤上に君はもういない』 綾崎隼／著 KADOKAWA

女性棋士の壮絶な戦いを涙なくして読めません。ちなみに現在日本には女性の棋士「女流棋士」はいますが、プロの「女性棋士」はいません。将棋界の知識がない人でものめり込めます。プロ棋士になるまでの試練、タイトル戦への挑戦までの長い道のり、まさに命を懸けて過酷な勝負の世界に挑む棋士たちの物語。あとがきまで読んでほしい。(選んだ司書:朔太郎)

## 一般教養



『紫式部の暗号 -世界のKYOTOへいざなう『源氏物語』の裏ポイントは「気象」-』

石井和子／著 三五館

今、大河ドラマで注目の「源氏物語」。あの「野分」のシーンでは風速何メートルの風が吹いていたのか？「雨夜の品定め」の夜の気圧配置は…？

気象予報士の著者が新たな視点で「源氏物語」を読み解きます。物語の背景となる気象現象を知る事で「源氏物語」をよりリアルに感じ取れる一冊です。

(選んだ司書:のっぼさん)

## 児童教養



『ウルト昆虫記 バッタを倒しにアフリカへ』 前野ウルト浩太郎／著 光文社

バッタバッタバツ束ツタ、束バッタ…。

バッタが束(大群)になってやってきて、食べ物を食い尽くす。そんなアフリカの農業危機を救うべく、バッタアレルギーのバッタ博士。ファールに憧れ、バッタに食べられたいバッタ博士のアフリカでの生活や研究の様子を、小学生にも読みやすい解説と振り仮名つきで書かれています。

この春に続編も出ました。(選んだ司書:お糸)

## 一般小説



『八日目の蟬』 角田光代／著 中央公論新社

—優しかったお母さんは私を誘拐した人でした—

「子供の誘拐事件」をきっかけに家族とは？母親とはなにか？を考えさせられる作品。直木賞作家、角田光代が全力を注いで書き上げた、心ゆさぶる傑作長編です。(選んだ司書:★)

## 一般教養



『#名画で学ぶ主婦業傑作選プラス』 田中久美子／監修 宝島社

「何しに2階に来たんだっけ」「明日ラップの芯がいるの!?!」  
…そんな日々のあるあるを、名画に添えたらあら不思議。そういう場面に見えてくる!?!X(旧Twitter)の人気ハッシュタグを元にした、くすっと笑える傑作選です。名画や西洋美術史の解説もついているので、楽しみながらも学びのある1冊です。(選んだ司書:ばす)

## 児童教養



### 『ぼくは本のお医者さん』 深山さくら／文 校成出版社

こわれた本を治療する“ブックドクター”として活躍する齋藤英世さんは、「本にはそれぞれ、その本だけの歴史がある」をモットーに、これまでに5000冊以上の本を直してきました。

まさに絵本の『ユリキュールおじさん』のように、本に刻まれた歴史と持ち主の思い出を大切にしながら本を修理する英世さん。彼がこれまでに歩んできた道をたどる一冊です。 (選んだ司書：ガラシャ)

## 一般小説



### 『ライオンのおやつ』 小川糸／著 ポプラ社

余命を告げられた主人公は、島のホスピスで残りの日々を過ごすことをえらぶ。食べること、生きることを描きだした作品です。

悲しい話なのかな?と思いきや読みやすく、毎日を大切にしなければと思わせてくれる心にしみる一冊です。 (選んだ司書：にゃんこ)

## 一般教養



### 『大相撲と鉄道 -きっぷも座席も行司が仕切る!?!』

木村銀治郎／著 能町みね子／イラスト 交通新聞社

熱海富士、翠富士など郷土力士も活躍中の大相撲。

行司というと、土俵上で勝敗を判定して軍配を挙げるのが仕事と思いがちだが、他にもたくさんあるようだ。そのひとつが、本場所や地方巡業の際の列車の手配、車両割り、力士の座席指定という。現役の幕内格行司が大相撲と鉄道の関わりを紹介! (選んだ司書：ああああ)

## 児童絵本



### 『おばあちゃんのにわ』 ジョーダン・スコット／文 シドニー・スミス／絵 原田勝／訳 偕成社

カナダの詩人、ジョーダン・スコットの、祖母との思い出が描かれています。二人と一緒に過ごす日々は、とても穏やかで優しく、おばあちゃんの「ぼくのほっぺたをそっとつまむ」「ぼくの手のひらのすじを一本ずつなぞる」などの何気ない仕草が魅力的です。

言葉を介さない、二人の心が通い合う姿に胸を打たれます。(選んだ司書：AK)

## 一般教養

しりあがり×北斎  
-ちょっと可笑しな  
ほぼ三十六景-

### 『しりあがり×北斎 -ちょっと可笑しなほぼ三十六景 しりあがり寿作品集-』

しりあがり寿／著 小学館

漫画家という枠に収まりきれない、静岡が生んだ巨匠“しりあがり寿”が、稀代の浮世絵師“葛飾北斎”を相手に遊び尽くします。寝る前に眺めて、クスツとしたら、きっと良い眠りが訪れます。(選んだ司書：かっお助)

## 一般教養



### 『作家の手料理』 秋山十三子ほか／著 野村麻里／編 平凡社

幸田文、向田邦子、武田百合子、伊丹十三、山田風太郎…著名人達の「おうちごはん」は、一体どんなものなのでしょう?

作家たちのこだわりに感心し、ちらりと覗く日常にほっこりします。レシピを参考に作ってみるのもおもしろいですね。とびきり美味しいアンソロジーです、どうぞ召し上がれ。(選んだ司書：なみすけ)

## 一般小説



### 『君の臍臓をたべたい』 住野よる／著 双葉社

ある日、僕が拾った文庫本「共病文庫」。それは、余命1年のクラスメイト、桜良のものだった。桜良の死ぬ前にやりたいことに付き合ううちに、日常のない彼女の人柄に触れ、絆が生まれていく。想像もしなかったラストに、涙なしには読めない一冊です。あなたもきっと、今日を大切に生きてくなるのではないのでしょうか。 **(選んだ司書：まる)**

## 一般教養



### 『おばあちゃんは猫でテーブルを拭きながら言った -世界ことわざ紀行-』

金井真紀／著 岩波書店

「風を食べる」「きのこと名乗ったからには、籠に入れ」など、いったい何の事?? と思うようなことわざが満載。世界36言語の心が喜びことわざを大公開しています。外国語はまったくわからないけど、言語にまつわるおもしろエピソードがダイスキという、好奇心旺盛な著者のイラストと解説をご堪能下さい。 **(選んだ司書：Tママ)**

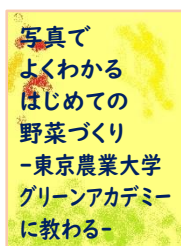
## 一般小説



### 『おばちゃんたちのいるところ』 松田青子／著 中央公論新社

絵本が好きな方なら見覚えのある題名かもしれませんが、このお話の主人公は「かいじゅう」ではなく、「おばちゃん」たち（しかも幽霊!）。おばちゃんとは優しくも強い存在、それは幽霊になっても同じ。迷える現代人を救うため、一肌脱いでくれるのです! お化けがでてくるのに怖くない、爽快連作短編です。 **(選んだ司書：お豆腐)**

## 一般教養



### 『写真でよくわかるはじめての野菜づくり -東京農業大学グリーンアカデミーに教わる-』

柳川武夫／著 家の光協会

ナス・キュウリ・トマト・ジャガイモ・キャベツなどのつくり方を、写真をふんだんに使い、わかりやすく説明。畑づくりや苗づくりも紹介していて、農作業で使う剣先スコップや鎌・鍬などの道具や、堆肥や肥料などの効果的な使用方法も紹介。これから農業をはじめの方だけでなく、すでに経験されている方もおさらいになります。 **(選んだ司書：匿名希望)**

## 一般教養



### 『100万回死んだねこ -覚え違いタイトル集-』 福井県立図書館／編著 講談社

図書館の利用者がうっかり覚え違えた本のタイトルから、司書が正しいタイトルを導き出した事例集。

「『衝撃の巨人』ある?」「それは『進撃の巨人』ですね!」などなど。覚え違いから正解へ辿り着く司書の技術に感動しつつ、的確な回答(ツッコミ?)とシュールなイラストに爆笑してしまう1冊です。 **(選んだ司書：RK)**